

ハナアブ 海外使用事例

ハナアブ受粉のメリット

- 持続可能なポリネーションサービス**
 - 自然な方法で生産を最適化したい農家や種子会社のための革新的な受粉手段です。
- 優れた適応性**
 - 他の花粉媒介昆虫より活動温度帯が広く、曇天時でも活動します。
- 取り扱いの容易さ**
 - 蜂に似ていますが、刺したり噛んだりせず、病原体もありません。安全で無害な花粉媒介昆虫です。

スイカ

海外試験事例



ウリ科植物における有効性

クイーンフライとゴールドフライは、温室スイカ栽培において収量と品質を最大化するための自然交配手段です。

技術的利点と環境適応性

- ハウス環境への耐性：ミツバチがストレスを受けやすい、閉鎖環境、高温、湿度変動といった条件下でも優れた性能を発揮します。
- 花の選り好みがない：雄花と雌花、二倍体と三倍体の品種を区別なく訪れ、結実に必要な花粉を媒介します。
- 安定した活動：1日10時間以上活動することができ、曇りの日や光条件が変化する場合でも、効果的に訪花します。

1. 果実の収穫

商業収量

+26%

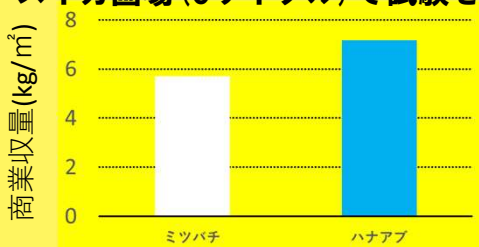
- 平均重量の増加：商業用果実の平均重量が大幅に増加しました（ハナアブ2.96kg：ミツバチ2.41kg）
- 品質の向上：ミツバチ受粉よりも高品質果実の割合が高くなった。（二倍体・三倍体品種とも）
- 甘さの保証：Brix値はミツバチによる受粉と同等で官能品質が保証されています。（ハナアブ11.26 ミツバチ11.09）
- 商業用果実の数：結果はハナアブ2.5個/m²、ミツバチ2.4個/m²

スイカ種類別Brix値

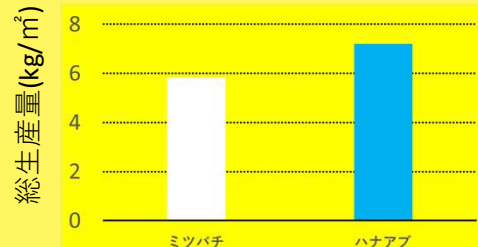
	ハナアブ	ミツバチ
二倍体	11.16	11.43
三倍体	11.26	11.09

●収量試験結果

2019-2025年にかけて、スペイン・アルメリアの複数の地域で、二倍体品種と三倍体品種のスイカ圃場(3サイクル)で試験を実施した。



商業収量はハナアブ区7.17kg/m²、ミツバチ区5.71kg/m²



総生産量はハナアブ区7.20kg/m²、ミツバチ区5.84kg/m²

イチゴ

海外試験事例



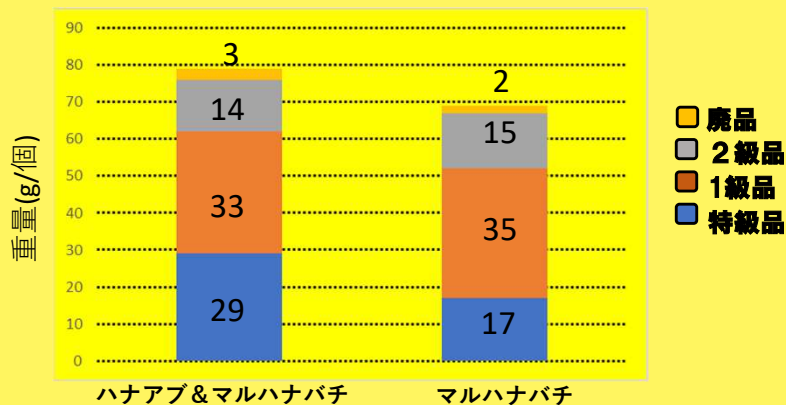
イチゴにおける有効性

クイーンフライとゴールドフライは、イチゴの受粉に効果的です。

技術的利点と適応性

- イチゴの収量を増加させます。
- 収穫品質を向上させます。
- 超早期・早期の生産量を向上させます。
- マルハナバチやミツバチなどの他の受粉媒介者と併用が可能です。
- LEDライト下で非常に効果的です。

●ハナアブの追加により高品質な超早期収穫量が増加



高品質果実の生産量増加



使用上の注意点

- 箱を極端な温度変化のある場所で保管しないでください
- 過度の湿度(雨や灌水システム)に直接晒さないでください
- 箱を直射日光から保護してください(特に夏場)
- 段ボール箱の上に重いものを置かないでください。
- ハナアブの羽化と出入りを容易にするため、箱と箱の間にスペースを開けてください。

- 鳥が蛹を食べようとする可能性があります。
- アリやその他の徘徊性の捕食者から蛹を守ってください。
- 殺虫剤やその他の化学製品に敏感です。
- 粘着トラップに敏感です。
- 必要に応じて水と砂糖を与えてください。

羽化

蛹から成虫まで



温度 (°C)	期間 (日)	種類
14°C	4-7	ゴールドフライ
12°C	5-10	クイーンフライ
30°C	2-5	ゴールドフライ
24°C	3-7	クイーンフライ

成虫の羽化は温度によって異なります。受粉活動は羽化後24~48時間で始まります。

